

KWACHA

No.12

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。



マラウイを紹介する葛木 OG と土井 OG
～ 1994 年 2 月 20 日 横浜女性フォーラムにて～

アフリカの集い '94 開催

「アフリカの集い '94」という催し物が 2 月 20 日 (日) に横浜市戸塚の横浜女性フォーラムで開催された。

これは (財) 横浜市海外交流協会、青年海外協力隊神奈川県 OB 会などの主催で毎年行なわれているもので今年で 3 回目。今回は「アフリカのエネルギー体感、見て、聞いて、食べて、体で感じるアフリカ」と題してゾーン 1～4 に大きく分け、アフリカを「国」を単位として見るのではなく、アフリカの人々へ等身大で具体的な生活や文化にスポットを当て、彼らが何を考えどのように生きようとしているのか、多面的かつ身近な視点から探り、アフリカとの関わり方を考えることを主旨として開催された。

ゾーン 1 は「音と映像」がテーマで、ブルキナファソ映画「ヤーバ」の上映と文化人類学者の川田順造東京外国語大学教授の解説のほか、公開ダンス・ワークショップ、公開パーカッション・ワークショップ、アフリカ音楽コンサートなど。

ゾーン 2 は「食と遊び」がテーマで、アフリカ料理試食会、アフリカおもちゃの作り方教室、マリ共和国のお茶アッタの茶会セレモニー・試飲会など。

ゾーン 3 は「対話」がテーマで、NHK 国際放送ラジオ日本聴取者からの手紙を取り上げ、アフリカ諸国と日本の人達のイメージギャップを検証したほか、「開発と女性」の視点からアフリカ女性の暮らしを体を動かしながら体験するプログラムが実施された。

ゾーン 4 は「旅」がテーマで、協力隊 OB/OG などのアフリカ在住体験者の話とクイズでアフリカ一周仮想の旅へ出かける企画。日本マラウイ協会からも葛木きぬ子 OG と土井やすみ OG がマラウイのスライドを映しながら約 20 分にわたってマラウイを紹介した。

地元新聞などの事前の PR が行き届いていたため、各ゾーン会場とも満員で、料理試食コーナーなどは整理券があつという間になくなってしまった。最近の横浜市民のアフリカに対する関心の高まりを伺わせた。



旅行誌が紹介

～日本マラウイ協会～

当協会がダイヤモンド・ビッグ社発行「地球の歩き方、東アフリカ 94～95 年版」という旅行誌で紹介されることになった。

これは 93 年 1 月 1 日発行の同誌 93～94 年版に「在日マラウイ大使館はなく、日本でマラウイのビザを取得することはできない。」との記述があつたので、当 KWACHA 編集部が昨年 2 月に、在日マラウイ大使館は既に開設されておりビザの取得も同大使館でできる旨 (KWACHA 第 10 号既報) を連絡したところ、今年 1 月になって同誌編集室から、3 月末発行予定の同誌 94～95 年版にその旨の記載と、当協会をマラウイ関係情報を得ることができる団体として読者に紹介すると連絡があつたもの。

同誌は世界各地編に分かれており、東アフリカ編はケニア、タンザニア、ウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、マラウイについて旅行者からの情報を中心に現地情報が詳細に収録されている。マラウイについては 93～94 年版では 20 ページにわたって紹介されており、おそらく日本国内で発行されているマラウイ旅行者用情報文献としては右に出るものはないと思われる。隊員 OB/OG 諸氏にとっては懐かしい地名がたくさん出ており、これから赴任する隊員候補生にとっても貴重な情報源となるにちがいない。是非御一読を!

マラウイ関係二編 TV 放映

1. 井澤隊員の活動その後

KWACHA 第 11 号で既報のマラウイ看護婦隊員の井澤章子さんの活動状況が再びテレビ放映された。これは昨年 11 月 12 日 (金)

フジテレビ系全国ネットの「報道熱血スペシャル～白衣の天使密着 24 時～」(午後 9 時 02 分～10 時 52 分) という番組の中で約 17 分にわたって紹介されたもの。同番組では昨年 4 月 30 日に同隊員をとりあげ、今回はその続編として彼女の配属先であるセントルーカス病院が管轄する地方の村の診療所 (マトペ診療所) での活動や、同病院付属看護学校学生への指導の様子などが紹介された。

また、前回の番組で視聴者に呼びかけた「マラウイ基金」に対する募金が 546 件 / 467 万 2,064 円になったことが報告され、基金で購入した医療品が井澤隊員に手渡される場面や同基金で作った患者・家族用のシャワールームが映ったほか、医薬品、消耗品、救急車 1 台が寄贈されたことが報告された。さらに、同病院事務長が寄贈されたものは地方の 8 つの診療所にもわけて有効に使いたいとお礼を述べる場面も放映された。

日本マラウイ協会は (社) 協力隊を育てる会、(社) 青年海外協力協会、フジテレビとともに構成される「マラウイ基金実行委員会」のメンバーとして、寄贈品の選定、現地との連絡、募金を寄せてくれた視聴者への礼状作成や発送などで同基金に協力した。

2. マラウイ湖紹介される

昨年 11 月 22 日 (月)、テレビ朝日系全国ネットでマラウイ湖およびそこに生息する珍しい魚類が紹介された。これはテレビ朝日開局 35 周年記念「ネイチャリングスペシャル～人類創世の大地を行く～」(午後 8 時 02 分～10 時 18 分) という番組のなかで約 14 分にわたって放送されたもの。

番組は俳優の赤井英和氏が北はエリトリアから南はモザンビークまでアフリカ東部を南北に貫く大地溝帯に沿って 4,000km を旅するもの。マラウイ湖では自らが潜り、珍しい淡水魚の生態を伝えた。マラウイ湖は 200 万年以上も前にでき、地溝帯にたまった水からだけ成るため独自の進化を遂げる生物が多く、生息する魚の約 80% が固有種であることが知られている。美しいマラウイ湖中の映像は学術的にも価値のあるものと思われた。



マラウイ湖の魚 アーリー

改正が現在病気で 1971 年以来終身大統領であるカムズ・バンダ大統領の地位にどのような影響があるか明かでない。

MBC ラジオはまた、憲法改正は国会議員を指名する大統領の権利を廃止したこと、大統領候補者の最低年齢を 40 才から 35 才に引き下げたこと、選挙権を 21 才から 18 才に引き下げたことを伝えた。

(注: その後の情報によると、バンダ大統領は国の「終身」大統領ではなくなったが、引き続き大統領の地位にあり、マラウイ会議党の「終身」党首であるとのこと。)

マラウイ軍、ヤングパイオニア本部急襲

Japan Times 1993 年 12 月 4 日号より抄訳

目撃者によると、首都リロングエで 12 月 3 日、機関銃で武装したマラウイ軍がヘリコプターの警護する中、準軍事組織であるヤングパイオニアの本部を急襲し、少なくとも 16 人が死亡した。

市の中心部にあるカムズ青年スポーツ会館は、軍隊が銃弾を掃射した後、内部を火で焼かれた。

丁度屋過ぎに電話取材に応じた西側外交官は、発砲は無差別であったが徐々に終結に向かっており、ヤングパイオニア本部は軍隊が占拠し兵士が包囲していると語った。

MBC ラジオは、政府はヤングパイオニアに武装解除するよう命令したと伝えたが、戦闘があったことは触れていない。

Japan Times 1993 年 12 月 5 日号より抄訳

マラウイの複数政党は、首都で軍と準軍事組織の戦闘、略奪行為があった後、現在国を統治している大統領評議員会に辞任を要求した。

政府高官は 12 月 4 日、3 日の戦闘による死者は 14 人、けが人は 78 人と発表した。しかし目撃者は少なくとも 16 人の死体を見たと言っている。

目撃者によれば、大統領評議員会が軍隊にヤングパイオニアを武装解除させるよう命令してから 24 時間たった 4 日、リロングエの建物のいくつかはまだくすぶっているという。

カムズ中央病院職員によると、死傷者はほとんどヤングパイオニアであるが市民や兵士も含まれているという。

外交筋によると、戦闘の後、バンダ大統領が財務的支配力を持つ幾つかの商店やマラウイ会議党の本部が略奪行為にあった。バンダ大統領は 10 月に南アフリカで脳の外科手術を受けた後、現在国内にいる。

複数政党で構成する国家諮問評議会 (NCC) は、衝突が発生したあと 5 時間におよぶ会合を持ち、3 日遅くに大統領評議員会にその辞任と暫定大統領と交代することを求める声明を発表した。

Japan Times 1993 年 12 月 7 日号より抄訳

外交筋は 12 月 5 日、マラウイ軍幹部は先のヤングパイオニア本部への突然の手入れの際、自らの軍隊への指揮を失っていたと語った。政府は兵士に対し命令に従うように訴え、軍司令官も政府に忠誠を尽くすと誓約した。

問題は 12 月 3 日に軍がヤングパイオニア

を武装解除する作戦を開始した後に発生した。ある外交官は、その時 2 ~ 3 人の兵士が元の命令の範囲を明かに超える行為に走り、指揮の欠如が略奪行為を引き起こしたとし、リロングエ・オールドタウンの約 10 の大きな商店が略奪され、それらは主にアジア人経営の店であったと語った。

バンダ大統領復権

Japan Times 1993 年 12 月 8 日号より抄訳

MBC ラジオによると、カムズ・バンダ大統領は 12 月 7 日、脳の外科手術から 2 ケ月たつて職務に復帰することに適していると判断された。

首都リロングエでは、発表はすぐに懐疑的とされたと住民や外交筋は語った。

MBC ラジオは、バンダ氏を 6 日に診察した医師が十分な結果を示したため、9 月以来病気のバンダ氏に代わり国を運営してきた 3 人からなる大統領評議員会は解散したと伝えた。10 月 3 日の南アフリカでの脳の手術以来、大統領は公の生活から遠ざかり、全ての権力を大統領評議員会に手渡していた。

隣国ジンバブエの首都ハラレからの電話取材に応じたリロングエの西側外交筋は、バンダ氏はまだ姿を現していないし、少なくとも 22 人が死亡した 12 月 3 日の暴動と略奪行為に関して何の声明も発表していないと語った。バンダ氏は病気になる前、国家的な事柄について定期的に放送に出ていた。

その外交筋によると、7 日のラジオ発表は、おそらく先の暴動の後に政府に辞任を要求している勢力の強い監視団との対決を避けるために、バンダ氏を表看板として使う大統領代行グループの作戦と見られている。

大統領新年メッセージ

Malawi News 1994 年 1 月 1 ~ 7 日号より抄訳

カムズ・バンダ大統領は、所属している政党に関係なく全マラウイ国民に対し、安定したより良いマラウイを作るため寛容さと調和を訴えた。

昨夜 (12 月 31 日) の新年メッセージ放送で、大統領は全政党に対し、互いの政治的相違点を寛容さをもって議論し、移行期間や移行後のこの国の平和と静けさ、法と秩序、人種間の調和を保つよう訴え、「過去 31 年間にわたって人種間暴力や種族紛争を避けてきたのと同じ政治的英知が、総選挙期間やその後の我々の政治的行動を的確な方向へ導くことを確信している。」と述べた。

大統領はまた、軍と警察によるヤングパイオニアの武装解除の初期段階でモザンビークに逃げた同メンバーの帰還について議論するため、マラウイ・モザンビーク合同防衛安全委員会の会合を 1 月 5 日にブランタイヤで開くことを明らかにし、彼らに対し安全は保証するので帰国して警察や軍に出頭するよう呼びかけた。

さらに大統領は援助提供機関・国に対し、マラウイの政治的変化における例外的な進歩と現在進行中の経済調整過程における経済政策対策を認め、援助再開を決定したことに対し感謝の意を表明した。

観光列車始まる

Daily Times 1994 年 1 月 13 日号より抄訳

マラウイ鉄道はソチエ旅行会社および情報放送観光省と協力してリンベ駅からチョロのテケラニにあるザオ滝まで観光振興列車を編成した。

ルオ川にあるザオ滝は美しく風景のよい旅行の場所で、道で近づくことができないためまだ多くの人が訪れていない。

マラウイ鉄道総支配人のフランク・マークハム氏は、1928 年に総支配人用の客車として調達した調理、休養、会議室設備などを備えた貴賓客車がまだ良好な走行状態であり、6 年前に南アフリカから調達した一等客車もあり、同社は一等車を運行していないので、これら 2 つの客車を家族向けの遊覧旅行用に賃貸しすべきと決定されたと述べた。

1 月 8 日土曜日が観光列車としての初の運行になった。マークハム氏は列車は 90 名までの客が乗車でき、すでにイギリス高等弁務官が一度リロングエからチボカまでこの列車を借り、リンベロータリークラブもこのサービスを利用したと述べた。

同氏は平均 60 名の利用で 1 日当たりの賃借料は 5,000 クワチャ (約 12 万 5 千円)、1 人当たりになると概ね 100 クワチャ (約 2,500 円) で、土曜日に運行されると語った。

世銀、継続援助約束

Daily Times 1994 年 1 月 24 日号より抄訳

世界銀行のマラウイ駐在代表アリフ・ズルフィカ氏は 1 月 21 日、ブランタイヤのマウントソチエ・ホテルで記者会見し、世銀は主要開発議題においてマラウイを継続援助すると語った。

会見で氏は、世銀は貧困軽減、私企業の投資に対する環境自由化、小自作農民の生産性拡大、天然資源保全、マクロ経済の安定などの分野でマラウイ政府への支援を継続すると述べ、援助提供機関・国がマラウイへの開発援助を中止した昨年中においても、国際収支援助を続けたと述べた。

さらに氏は、世銀は過去 27 年間にわたって合計 60 億クワチャ (約 1,500 億円) 以上、71 の案件をマラウイに承認し、これら資金の約 30% を構造・分野調整案件を通じて国際収支援助として提供しており、他の分野ではインフラ整備、水、農業、教育、エネルギー、健康、産業、都市の住宅に関係していると述べた。

氏はまた、世銀はその貸与決定を経済指標に基づいているので政治的機関ではなく、昨年の国際収支援助を止めなかったと説明した。



DIGEST
ダイジェスト
マラウイ/日本の
マスコミから

**日本政府 3,900 万
クワチャ援助**

Daily Times
1993 年 9 月 21 日号より抄訳

日本政府はマラウイへ債務救済と開発プロジェクトのために 3,900 万クワチャ (9 億 4,460 万円) 余りを援助した。

この援助は、イギリス政府による 5 月以来初めての 6,700 万クワチャの国際収支援助と同じ日の 9 月 17 日に行なわれた。

ルサカの日本大使館からのテレックスによると、ザンビアの首都駐在の堀内伸介マラウイ大使はザンビア駐在のマラウイ高等弁務官レムソン・サムソン・チツァンバ氏と援助合意文書に署名した。

3,958 万クワチャのうち、1,070 万クワチャ (2 億 5,760 万円) 余りはマラウイ政府が自動車、コンピュータ、予備部品などを購入するために使った債務救済援助で、990 万クワチャ (2 億 3,700 万円) はムチンジ水道プロジェクトの第 2 段階に使われる。3 段階に分けられるこのプロジェクトを通じて、日本政府はこの地区の住民が清潔な水の安定供給を得られるよう 300 の井戸を建設する。110 の井戸を建設する第 2 段階は始まることになる。

最も大きい部分の 1,880 万クワチャ (4 億 5,000 万円) は増加する食料生産のために使われる。テレックスによると、政府は肥料や農業化学製品を購入するためにその援助金を使用するとのことである。

大統領、南ア入院へ

Financial Times 東京版

1993 年 10 月 4 日号より抄訳

カムズ・バンダ大統領が病気治療のため南アフリカに飛んだことが 10 月 3 日夜明らかになり、野党側へ権力空白の可能性を埋める手助けの用意を思いつかせることになった。

大統領の状況についての詳細は明かにされていないが、マラウイ国民は、9 月 30 日に心臓麻痺を起したと思われる大統領が病床に伏しているだけで伝えられている。

しかし、長い間バンダ大統領の後継者と言われているジョン・テンボ国務大臣はファイナンシャルタイムズとのインタビューで、大統領は南アフリカにいることを確認し、どこが悪いかわからないが良くなりつつあると聞いていると語った。

大統領は 3 日に首都リロングエで開かれた政権党であるマラウイ会議党の年次党大会に

出席せず、現在進行中の民主主義への移行において野党との密接な関係を提唱する開会挨拶を閣僚が代読した。バンダ大統領が公式に病気であると知らされたのは 29 年間の大統領在任中ではじめてのことである。

権力の空白が今にも起きると考える野党側は、マラウイ国民の決定的多数が政治の複数制と一党制の終結を望んで投票した 6 月以来順調に進んできた民主化過程に対して、バンダ大統領の死去がもたらすかもしれない結果について不安を示している。

野党側代表者が多数を占める国家諮問評議会 (NCC) は新選挙法案と選挙までのタイムテーブルを起草中である。NCC の勧告が 10 月の国会で政権党であるマラウイ会議党の承認を得るとされている。

2 つの主な野党グループの 1 つは国の北部に関係が深いチャクワ・チハナ氏の民主主義同盟 (Aford) と、もう 1 つは南部に関係が深いバキリ・ムルジ氏の連合民主前線 (UDF) である。

Aford 高官は、必要ならマラウイ会議党が総選挙までの暫定大統領を指名することが望ましいとし、UDF は総選挙を予定の 94 年 5 月より早く実施するよう圧力をかける模様である。ムルジ氏は 3 日夜、暫定大統領が必要ならそれを選ぶのに全政党がその役を果たすよう呼びかけた。

大統領評議会設置

Daily Times 1993 年 10 月 14 日号より抄訳

大統領内閣局 (OPC) はマラウイ共和国憲法第 13 章に従って大統領評議会が設置されたと発表した。

評議員会はマラウイ会議党のグアンダ・チャクアンバ・ピリ事務総長を議長とし、他のメンバーは大統領室の国務大臣でもあるマラウイ会議党のジョン・テンボ会計局長官、そして運輸通信大臣でもあるロブソン・チルワ北部地方議長である。

大統領評議員会は 13 日、マラウイ共和国憲法第 14 章に従って、マラウイ会議党の国家高等委員会 (NEC) と内閣との合同会議 (グアンダ・チャクアンバ・ピリ氏が召集し議長を務める) で設置された。

OPC はさらに大統領評議員会はマラウイ共和国憲法第 13、15 章に従って、終身大統領が大統領室で職務できない限りマラウイ大統領の職務を行なうと発表した。

13 日にリロングエで開かれた国家諮問評議会 (NCC) は、現在、大統領が南アフリカ

で入院しているため、政府の日々の業務を遂行するために大統領評議員会を構成する必要性があると提案した。MBC ラジオとのインタビューでドン・カリヨマ・ブミサ NCC 議長は、大統領が病気のため、最も重要な政府の決定の幾つかが執行できないかもしれないので、大統領評議員会を設置することに決定したと説明した。

総選挙、5 月 17 日実施

Daily Times 1993 年 10 月 15 日号より抄訳

国家諮問評議会 (NCC) の今月の議長担当であるカリヨマ・ブミサ氏は 10 月 13 日、リロングエで、マラウイにおける複数政党制下の初めての大統領選挙と国会議員総選挙は来年 (1994 年) 5 月 17 日に行なわれると語った。

NCC は 10 月 12 日から 13 日まで首都のキャピタルホテルで 2 日間の会合を開き、他の議題と共に総選挙に先立つ諸般の日程を討議した。

今月、議長担当の党である民主主義同盟 (Aford) の中央高等委員会メンバーのカリヨマ・ブミサ氏は、NCC は大統領選挙と国会議員総選挙を別々に行なうべきこと、従って大統領は広く一般から選出され、必ずしも国会で最大議席を占める党から選出されるとは限らないこと、総選挙の結果が 5 月 19 日の昼間に発表されること、新大統領は 5 月 21 日に宣誓就任することに合意していると述べた。NCC が合意している総選挙までの日程は次のとおり。

- 93 年 7 月～ 11 月
 - ： 憲法と各種の権利法律の制定
- 93 年 10 月～ 11 月
 - ： 新しい選挙法と選挙委員会の任命に関する最終決定
- 93 年 11 月～ 94 年 1 月
 - ： 複数政党政治についての国民への教育、政党の候補者の指名と登録、選挙の政党シンボルマークの合意
- 94 年 3 月～ 4 月
 - ： 有権者の登録と登録の確認
- 94 年 3 月～ 5 月 15 日
 - ： 選挙運動、選挙過程に関する国民への教育

終身大統領制終える

Japan Times 1993 年 11 月 19 日号より抄訳

MBC ラジオは、マラウイ国会で終身大統領制を廃止する憲法改正案が 11 月 17 日通過したと伝えた。

BBC 放送が傍受したレポートからは、この



会場でのスナップ (中央が重光綾子氏)

アフリカン・チャリティー・ファッションショー開催さる

昨年の 9 月 11 日、東京世田谷区の三茶しゃれなードホールにおいてアフリカン・チャリティー・ファッションショーが開催された。このショーは ADIWA (African Diplomat and International Wives Association) の主催、日本中近東アフリカ婦人会 (元駐ナイジェリア大使夫人の重光綾子氏が会長) の協力で開かれ、マラウイをはじめとするエチオピア、カメルーン、ジンバブエ、タンザニア、ナイジェリア、ザンビアの各国大使夫人、大使館員夫人・令嬢により各国民族衣装が披露された。

ナイジェリア大使館のガーナ氏の司会により進められ、「God Bless Africa」の斉唱に始まり、ファッションショーと共に大使館関係者手作りのアフリカ料理も給仕され好評を博した。ショーの最後はディスコタイムで締めくくられ、観客席の人達も入り交じって夜遅くまで踊り明かされた。

なお、このショーの収益や当日会場で集められた寄付はアフリカ地域で飢餓に苦しむ子供たちのために使われるとのことである。



ムランジェ付近にて (提供: 三次啓都氏)

マラウイ再訪

JICA 調達部契約課 三次啓都

昨年の12月にマラウイに里帰りする機会を得ました。と言っても帰国後5ヶ月目のことで、代々のOB隊員の方には少々羨まれることかもしれません。

12月3日のフライトで一路オランダに向かったわけですが、気分は日本への一時帰国を終えたような感じで出張業務のような気分にはならず、アムステルダムへ着くなり翌日の長時間フライトに備え、そそくさとホテルのベッドに潜り込んだ次第でした。その頃、JICA本部からの電話で「マラウイで銃撃戦が起こり、治安が確認されるまで待機」の指示が出た訳です。

何が起きたのかは日本でも新聞報道がなされ、だいたい御存知だと思いますが、復習すると「ムズズのボトルストアで同席したヤングパイオニアと軍兵士が言い争いになり銃が抜かれ2名が死亡。その後、主にリロングエの軍がカムズ青年会館とヤングパイオニア本部を襲い両者で銃撃戦が発生。軍はヤングパイオニア本部を制圧し武装解除を行った。」となります。

銃撃戦は12月3日で終わり、散発的発砲は12月4日まで続いたものの12月5日にはほぼ収まっていたようです。結局、私は12月9日にリロングエに入りましたが、いつもの通りで何も変わったことはなく、何だか事件そのものがデマのような気になるくらいでした。ただ、カムズ青年会館とヤングパイオニア本部は焼けただれ、壁や車両には銃痕も見られ、その激しさは十分伝わってきます。知人のUNDPの職員に聞いたところ (UNDP事務所はヤングパイオニア本部に比較的近い場所にある)、ヘリも空から銃撃していたとのことでした。

ヤングパイオニアの武装解除については昨年の多党制の国民投票後から与野党問わず話題に上がっていたようです。特に与党 (マラウイ会議党) にとっては、今年5月の総選挙においてヤングパイオニアの存在が集票に大きな影響を及ぼすことを恐れており、ヤングパイオニアはお荷物になってきた感があります。ただ、武装解除なしには組織の改編にも手をつけられないと言うのも事実です。今回の事件は各新聞の論評 (現在、デイリータイムズを含め15紙程度が発行されている) を見る限り、軍が国会を経ずに勝手に動いたということで非難していますが、ヤングパイオニアを襲ったことについては特に論評していませんでした。事件のきっかけは先に書いたとおりですが、その背景は一連の民主化の必然性なのではないでしょうか。

公式発表は22名が死亡したと伝えていますが、カムズ中央病院に入っている隊員の話では、そのほとんどが一般人だったらしいとのことでした。

民主化が歴史の流れにせよ、これ以上の血を流さず、無事、総選挙を迎えてほしいと思います。

Information Corner

■総会のお知らせ

平成5年度の日本マラウイ協会総会を下記のとおり開催します。会員の皆様は同封の葉書にて4月30日までに出席をお知らせ下さいませようお願いします。

- 日時 平成6年5月14日(土) 15:00~17:00(総会)、17:00~19:00(懇親会)
片方のみ出席も可、懇親会会費 3,000円
- 場所 東京都渋谷区広尾 5-4-9
青年海外協力隊帰国隊員研修所 TEL 03-5420-2382
- 議題 1.平成5年度決算 2.平成6年度予算 3.平成5年度活動報告
4.平成6年度活動方針 5.その他

■大懇親会のお知らせ

日本マラウイ協会ではマラウイ独立30周年を記念して、平成6年7月9日(土) 15:00~17:00〔予定〕に大懇親会を開催します。詳細は追ってご案内しますので、多数のご出席をお待ちしております。

■旅行ガイドの有料配布について

日本マラウイ協会では旅行ガイド「マラウイへの旅」(B5両面27枚、ワープロ編集)を発行しました。ご希望の方はコピー代、送料として80円切手10枚を同封の上、下記の当協会までお申し込み下さい。

■バックナンバー読めます

当KWACHA紙と姉妹紙KWACHA News Letter紙のバックナンバーがJICA図書館の国情情報ファイルボックス518に備えられています。

〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5 国際協力センタービル内 国際協力総合研修所
JICA図書館 TEL 03-3269-2301 FAX 03-3269-2421

開館時間: 平日 09:40~18:00

休館日: 土日祝日、館内整理日(原則として毎月末)

JICA設立記念日(原則として8月1日)

■日本マラウイ協会ビデオライブラリーについて

日本マラウイ協会では当協会のオリジナル作品を含むマラウイやアフリカ関連などのビデオテープを、広く会員の皆様に返送費のみのご負担で貸し出しております。主なオリジナル作品の内容は次の通りです。(全てVHS、1本60~120分) 会員以外の方にも貸し出します。申し込み、問い合わせは葉書で下記の当協会までお願いします。

- (1) マラウイ独立25周年記念式典(1989年7月)
カムズスタジアムで独立記念日に催された式典とお祭りなどを紹介
- (2) From Warm Hearts of Africa
マラウイの暮らしと風物をエッセイなどと共に紹介
- (3) Malawi 1988-1990
フュージョンサウンドをバックにマラウイの風景とJOCVの活動現場を紹介

■現地隊員の皆様へ

KWACHA編集部では現地隊員の皆様からのお便りや原稿をお待ちしています。ご自分の活動内容に関するもの、住んでいる町の話、隊員間で話題になっていること、当協会に希望することなど何でも結構です。随時KWACHAに掲載し、お手伝いできることをしたいと考えています。宛先は下記をご参照ください。

■入会のおすすめ

日本マラウイ協会(Malawi Society of Japan)は日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。電話をいただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合1,000円+3,000円=4,000円)を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安くて便利です)

〒106 東京都港区南麻布5-10-24 第2佐野ビル702

日本マラウイ協会 TEL03-3447-2181 FAX03-3447-2933

●三和銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739

口座名義人 日本マラウイ協会名誉会長 卜部敏男

●郵便振替 東京9-13125 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。

■会費納入のお願い

会員の方は平成6年度会費を上記口座へ送金をお願いします。(個人正会員年3,000円) 皆様の会費によって本紙などをお送りしております。各自の負担を均等に心がけていただきませう御協力をお願い致します。なお、郵送の必要の無い方は至急お知らせ下さい。